

GIGA スクール構想とデジタルアーカイブ（４） ～オープン教育での協働学習に必要なリソース～

新田 直（元池田小学校）、
横山 隆光、鈴木 里香（岐阜女子大学）、
新垣 さき（沖縄女子短期大学）

GIGA スクール構想では、社会の変化に対応し、情報端末と通信ネットワークを用いてリソースから課題を見出し、その課題について話し合い（議論）解決していく力の育成が必要とされている。このような学習活動は、40年ほど前に池田町立池田小学校と幼稚園のオープン教育で試行がなされていた。今後、幼稚園教育、小学校教育でのGIGA スクール構想の主体的で深い学びでの学習活動でその方法を再構成し参考にすべきである。とくに、学びの手順などは現在にも利用できる。

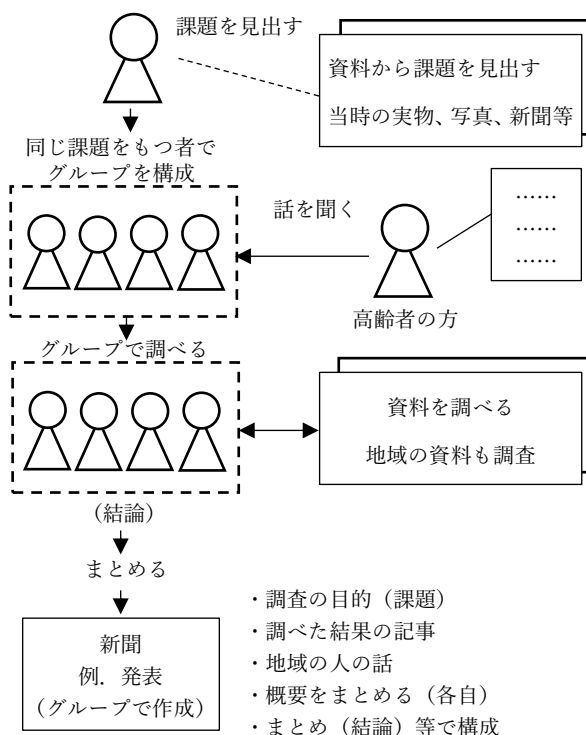
1. オープン教育での課題の解決と資料の活用

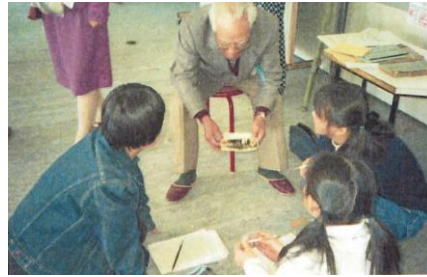
オープン教育では、多様な資料から課題を見出し、同じ課題を持つ児童が集まり、グループで資料を調べ整理し話し合い、課題を解決し、発表する協働学習が進められていた。たとえば、戦時中の生活についての学習では、

- ①戦時中の各種資料を調べ、自分の課題を見出す。
- ②同じ課題をもった者で、協働で資料を調べ話し合い解決していた。この協働学習では、資料の他に地域の高齢者の方に戦時中の話を聞き、実物や当時の新聞資料・写真を調べ、グループで話し合い、結論を得ていた。

③まとめる。（新聞作り）・発表

まとめる方法としては、各分担を決め、目的、調査、昔の話、各自の意見、まとめる（結論）等の協働学習が進められた。



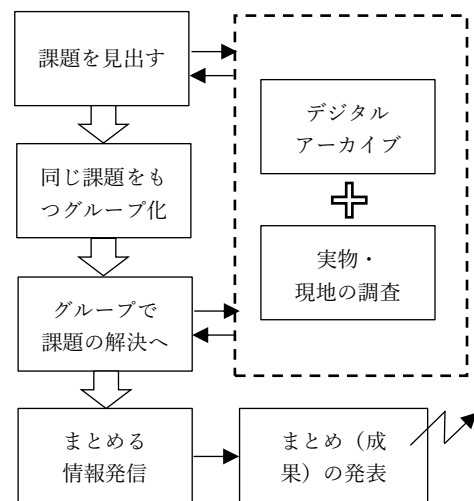


○教師は資料の収集・整理・展示と高齢者への話の依頼等の対応で大変であった。

2. 資料管理はデジタルアーカイブで！

当時は、実物や印刷・写真資料を集め、整理し、単元の学習が終われば次の資料の整理が始まる大変な作業であった。オープン教育での教材資料の収集・整理は、教師にとって大変な作業負担であり、学びに必要な資料を共同で収集し、これらをデジタルアーカイブで保管することが可能である。

GIGA スクール構想では、全児童が情報端末の利用が可能であり、課題を見出すのもデジタルアーカイブのコンテンツを調べることができる。また、協働作業では、デジタルアーカイブや必要に応じて実物等も調べ、話し合い、課題を解決する。



その成果（結果）を分担で決め、情報発信する。このとき、全てデジタルアーカイブでの資料活用・調査ではなく、ときには、実物もあわせて調査すべきである。

3. ファミリーでの活動

これまでのグループ活動は、学年で輪切りにした児童の集合であったが、池田小学校では、1年～6年（ときには幼稚園児も含め）で構成したグループでの活動（協働作業）がなされていた。少子化で年齢の違った者の生活体験が少なく、これを補うため、また、多様な違った学習による協働作業と学び等の体験をさせるために構成された。（たとえば、給食、掃除等でも年齢差に応じた協働活動が重視されていた）

GIGA スクール構想、SDGs では、違った人達の協働作業、生活の必要性を重視したこのようなファミリー構成での学びの情報活用・生活の場の設置も教育として大切であろう。

4. 高齢者の参加、複数の教師の共同指導（「私の先生達へ」）

このような協働学習者には、高齢者の方々の参加、さらにクラス単位でなく、複数の先生方の共同・分担指導が必要である。

[トピック] かつて、筑波大学の故山中和彦先生が池田小学校のオープン教育を見られ、児童が「私の先生達」と言っていたのにカルチャーショックを受けたと話されていた。児童の意識も重要！